

介護の現場で12年 子どもや若者の笑顔があふれるまち・小平へ



福祉現場の声を市政に届ける懸け橋に
2期目に挑戦！

2019年4月、前任の木村まゆみさんからバトンを引き継ぎ、市議会議員として活動してきました。

12年間、市内の介護事業所で働いてきた経験を活かし、福祉現場の声を市政に届けることをモットーに、デイサービス利用者への昼食代補助（200円）の拡充、また介護保険の認定調査時のケアマネジャーの同席などの施策を実現してきました。

日本共産党

小平市議会議員

鈴木だいち

コロナ禍の「福祉現場の声」をくり返し市政に届け、要求を実現！

2020年の議員2年目からは、新型コロナウイルス感染症対策に奮闘する日々でした。

なかでも介護福祉ユニオンのみなさんと力を合わせ、市内100か所以上の介護事業所にコロナに関するアンケートを複数回行い、市長にその声をくり返し要望してきました。

また日本共産党小平市議団としても「コロナ緊急要望」を14回にわたり市長へ要望、コロナ対

策に全力で取り組んできた結果、介護事業所への「PCR検査補助」や「介護事業所への業務継続補助」「衛生用品等の購入補助」など小平市独自の施策として実現させることができました。

これからも「介護」をはじめ、「障害福祉」「保育」などの福祉現場の声を直接、市政に届けていくために2期目をめざして、がんばっていきます！

●1982年12月生まれ、東京都国立市出身、40歳。●国立1小、小平10小、小平4中、東野高校、和光大中退。●2006年NPO法人「第2こだま」勤務。●2010年東京介護福祉労働組合副委員長。●2011年小規模多機能サービス「やまびこ」に移動、2014年所長に。●2019年小平市議会議員に初当選。趣味は、音楽鑑賞



介護認定調査時のケアマネジャー同席、議会で質問して実現！

小平市では当時、認定調査にケアマネジャーが同席することが認められていませんでした。

そこで3年前の一般質問では、利用者や家族に寄りそった介護認定調査ができるよう、とりわけ利用者の様子を把握しているケアマネジャーが認定調査時に同席できるようにすることを強く求めました。

その結果ついに、小平市では必要に応じてケアマネジャーの同席が認められるようになりました。

これからも介護にまつわる「困った」を市政に届けていきますので、みなさんの声をお寄せください！



待ちに待った学校体育館へのエアコン設置が実現！

今後、実施計画や設置工事が進みます。

「気候変動」対策として「小平市ゼロカーボンシティ宣言」

2022年2月8日に「宣言」を行い、省・創・蓄エネルギー機器等設備モニター助成と地域の脱炭素化に向けた調査を行います。

介護にまつわる 「困った」の声を改善したい

要介護度の判定結果が実際の状態に合っていないために、利用者が区分変更（認定のやり直し）をしなければいけなくなる事例を介護士として働いている時に見てきました。

特に独居で家族が付き添えない人や、認知症の方などは自身の状況を認定調査時に調査員に正確に伝えることが難しいため、実際の状態より介護度が低く出てしまうことが多くあります。

例えば普段は杖を使用しない歩けない方が、認定調査時に調査員から「歩けますか？」と聞かれると、ついつい張り切り杖を持たずに歩いてしまった結果、実際の状態より低い介護度が出てしまうという話です。



「コロナ緊急要望」を
14回、市長に要望

鈴木だいちさんはこんな人

私は、鈴木だいちさんが所長時代の「やまびこ」で、70歳を過ぎから介護の仕事を経験しました。

介護の仕事を知らない私に、いろいろアドバイスしてくれ、「若いのに、やさしく、人あたりが良く好感の持てる好青年だった」との思い出が…。

2017年、市議会議員に立候補を決意するとき、「よくぞ決心してくれた」と涙が出ました。なぜなら、『いばらの道』を選んだんです。

でも介護現場を改善するには、「現場を知っている人」でないと…。

当選してからの活動、毎回の介護の問題、子どもたちのこと、生活のこと、多岐にわたっての質問に「がんばっているなー」といつも心強く感じています。この時代、鈴木だいちさんのような議員は必須です。我が家はすっかりファンで応援しています。がんばってねー！（縁川）

「国保税」2年連続ストップ！

国民健康保険税の値上げにつながる「小平市国保財政健全化計画」に共産党は反対を貫き、国保税の値上げを2年続けてストップさせました。